

2024年1月1日以降の実績

1号機

・1号機の原子炉注水設備においては、2月29日に実施する格納容器内部調査(気中部調査)に伴い、下記の手続きで1号機の原子炉注水を停止する。

また、調査終了後、1号機の原子炉注水を再開する。

(2月29日の原子炉注水量変更予定 調査開始前 :3.8 m³/h→0 m³/h)

(2月29日の原子炉注水量変更予定 調査終了後 :0 m³/h→3.8 m³/h)

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいります。

2月29日午前10時13分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:3.8 m³/h→0 m³/h)

その後、格納容器内部調査(気中部調査)の準備において、ヘビ型ロボットが予定していたポイントに到着することができなかったため、予定していた格納容器内部調査(気中部調査)については、調査を見送ることとしたことから、午後0時31分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(原子炉注水量変更:0 m³/h→3.8 m³/h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。

2号機

・2号機の原子炉注水設備においては、季節による原子炉注水の温度変動に伴い、燃料デブリの冷却に必要な注水量が変わる。

今回、冬季の原子炉注水温度の低下に伴い、2号機の原子炉注水量を下記の通り変更する。

(1月9日の原子炉注水量変更予定:1.5 m³/h→1.3 m³/h)

引き続き、関連パラメータについて、慎重に監視してまいります。

1月9日午前10時11分、原子炉への注水量を以下のとおり変更した。

(1月9日の原子炉注水量変更:1.5 m³/h→1.3 m³/h)

関連パラメータについては、異常のないことを確認。引き続き、慎重に監視してまいります。

3号機

現時点での特記事項なし

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

※5号機は使用済燃料プール冷却浄化系-残留熱除去系出口連絡弁点検のため、2月28日午後2時21分に使用済燃料プール冷却を停止した。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は17.8℃。5号機使用済燃料プール冷却浄化系-残留熱除去系出口連絡弁点検が終了したことから、3月5日午後2時25分、使用済燃料プール冷却の運転を再開。運転再開後の使用済燃料プール水温度は33.2℃。運転状態について異常がないことを確認。

6号機

※6号機は使用済燃料プールのサイフォン防止対策工事のため、1月15日午前10時38分に使用済燃料プール冷却を停止した。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は19.8℃。

6号機使用済燃料プールのサイフォン防止対策工事が終了したことから、1月16日午後2時39分、使用済燃料プール冷却の運転を再開。運転再開後の使用済燃料プール水温度は23.5℃。運転状態について異常がないことを確認。

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

現時点での特記事項なし

【H4, H6エアータンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【セシウム除去設備】

現時点での特記事項なし

【多核種除去設備(ALPS)】

現時点での特記事項なし

【増設多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮水処理設備】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮廃液タンク水処理設備】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯水タンクE 1月1日午前10時37分～午後2時35分。排水量590m³
- ・一時貯水タンクF 1月3日午前10時30分～午後4時8分。排水量838m³
- ・一時貯水タンクG 1月5日午前10時30分～午後3時0分。排水量671m³
- ・一時貯水タンクA 1月7日午前10時18分～午後1時54分。排水量537m³
- ・一時貯水タンクB 1月9日午前10時30分～午後3時1分。排水量671m³
- ・一時貯水タンクC 1月11日午前10時22分～午後1時40分。排水量492m³
- ・一時貯水タンクD 1月13日午前11時57分～午後3時32分。排出量534m³
- ・一時貯水タンクE 1月16日午前10時23分～午後2時3分。排出量545m³
- ・一時貯水タンクF 1月17日午前10時17分～午後1時48分。排出量520m³
- ・一時貯水タンクG 1月19日午前10時28分～午後1時31分。排出量454m³
- ・一時貯水タンクH 1月21日午前11時19分～午後2時7分。排出量417m³
- ・一時貯水タンクC 1月26日午前10時44分～午後2時33分。排出量569m³
- ・一時貯水タンクD 1月27日午前10時36分～午後2時35分。排出量591m³
- ・一時貯水タンクB 1月30日午前10時22分～午後1時。排出量390m³
- ・一時貯水タンクE 1月31日午前11時54分～午後4時50分。排出量605m³
- ・一時貯水タンクG 2月2日午前10時12分～午後5時3分。排出量1,021m³
- ・一時貯水タンクF 2月3日午前11時46分～午後2時40分。排出量432m³
- ・一時貯水タンクH 2月4日午前10時31分～午後4時。排出量818m³
- ・一時貯水タンクA 2月6日午前11時12分～午後5時52分。排出量996m³
- ・一時貯水タンクB 2月8日午前10時48分～午後5時31分。排出量1,003m³
- ・一時貯水タンクC 2月10日午前10時42分～午後4時41分。排出量892m³
- ・一時貯水タンクK 2月11日午前10時15分～午前3時13分。排出量741m³
- ・一時貯水タンクD 2月12日午前11時29分～午前4時47分。排出量792m³
- ・一時貯水タンクE 2月15日午前11時4分～午前3時37分。排出量678m³
- ・一時貯水タンクJ 2月16日午後1時28分～午後6時40分。排出量776m³
- ・一時貯水タンクA 2月18日午前10時39分～午後3時57分。排出量790m³
- ・一時貯水タンクB 2月20日午前11時3分～午後3時54分。排出量725m³
- ・一時貯水タンクC 2月23日午前10時14分～午後2時56分。排出量703m³
- ・一時貯水タンクD 2月24日午前10時51分～午後1時59分。排出量467m³
- ・一時貯水タンクE 2月27日午前10時22分～午後2時18分。排出量586m³
- ・一時貯水タンクJ 2月29日午前10時50分～午後2時16分。排出量511m³
- ・一時貯水タンクA 3月1日午前10時25分～午後2時20分。排出量585m³
- ・一時貯水タンクB 3月3日午前11時9分～午後4時12分。排出量751m³
- ・一時貯水タンクC 3月5日午前10時14分～午後2時58分。排出量704m³
- ・一時貯水タンクD 3月7日午前11時3分～午後4時12分。排出量767m³

<特記事項>

*一時貯水タンクBの排水については、水位計に不具合が確認され、1月23日中の復旧が見込めないことから、排水を延期。延期する排水日時が定まった場合には、お知らせする。

*一時貯水タンクBの排水については、1月23日に水位計の不具合が確認されたため、排水を延

期していたが、1月24日に水位計を交換し、不具合が解消したことから、再度排水前分析を実施した。

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

- ・一時貯留タンクグループ3 1月6日午前9時53分～午後5時13分。排水量2,011m³
- ・一時貯留タンクグループ2 1月13日午前10時58分～午後6時15分。排水量2,016m³
- ・一時貯留タンクグループ3 1月22日午前11時19分～午後6時11分。排水量1,860m³
- ・一時貯留タンクグループ1 2月16日午前11時40分～午後5時9分。排水量1,210m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

ALPS 処理水測定・確認用タンク

以下、放出実績のみ記載。

<放出実績>

- ・ALPS 処理水測定確認用タンクB群 2月28日午前11時11分～2月29日午前0時 約242m³
2月29日午前0時～3月1日午前0時 約456m³
3月1日午前0時～3月2日午前0時 約456m³
3月2日午前0時～3月3日午前0時 約456m³
3月3日午前0時～3月4日午前0時 約456m³
3月4日午前0時～3月5日午前0時 約456m³
3月5日午前0時～3月6日午前0時 約456m³
3月6日午前0時～3月7日午前0時 約456m³
3月7日午前0時～3月8日午前0時 約456m³

【1～4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1号機放水路のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項無し

その他

【陸側遮水壁】

現時点での特記事項なし

【雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【増設雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【窒素封入設備】

現時点での特記事項なし

【その他設備の不具合・トラブル】

・2月19日、午後7時42分頃、1号機原子炉格納容器ガス管理設備において、核種分析装置B系の伝送異常警報が発生し、現場のモニタによる指示値の確認も出来ないことから午後7時59分に希ガスモニタB系の監視が出来ない状態と判断。

なお、ドライウェル圧力、原子炉格納容器ガス管理設備排気流量、水素濃度、ダスト指示等に変化がなく、希ガスモニタA系については、異常はなく監視に支障がないことを確認。

調査を行った結果、核種分析装置B系の現場監視装置モニタにエラーメッセージが発生していたことを確認したことから、午後10時28分に現場監視装置を再起動した。

その後、希ガスモニタB系の指示値に異常がないことを確認したことから、午後11時43分、監視可能な状態に復帰したものと判断。

今後、伝送異常が発生した原因を調査していく。

【けが人・体調不良者等】

・2月7日午前10時49分頃、発電所構内第二土捨て場において、体調不良者が発生し、入退域管理棟救急医療室で医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断されたため、午前11時48分、救急車を要請。

状況は以下のとおり。

- ・体調不良者の所属 : 協力企業作業員
- ・身体汚染の有無 : なし
- ・発生状況 : 作業中、体調不良を訴えた

当該体調不良者は、救急車で医療機関に到着。

- ・救急車出発時刻 : 午後0時14分
- ・救急車到着時刻 : 午後0時31分

その後、当該体調不良者については、医療機関にて医師の診断の結果、個人の疾病と判断。

なお、個人の疾病であり、病名等は控える。

【その他】

・2月7日午前8時53分頃、協力企業作業員が高温高圧焼却炉建屋東側壁面の配管から水が漏れいしていることを確認。

状況は以下のとおり。

- ・発生場所 : 高温高圧焼却炉建屋東側
- ・漏えい箇所 : 高温高圧焼却炉建屋東側壁面に設置されている第二セシウム吸着装置のベント口
- ・漏えい範囲 : 漏えい箇所下部敷き鉄板上約4m×4m×深さ1mm
漏えい箇所下部敷き鉄板の隙間から土壌へ漏えい水がしみ込んだ可能性あり
- ・拡大防止処置 : 漏えい箇所を区画
- ・漏えい継続の有無 : なし

・汚染の有無 : あり スミヤ測定結果:72,000cpm(バックグラウンド:300cpm)
測定結果より第二セシウム吸着装置の系統水と判断

・外部への影響 : モニタリングポスト・敷地境界連続ダストモニタの指示値に有意な変動がないことを確認

漏えい箇所からの距離が最も近いK排水路モニタの指示値に有意な変動がないことを確認

漏えい箇所近傍に堰・側溝がないことを確認

漏えい箇所下部敷き鉄板の隙間から土壌へ漏えい水がしみ込んだ可能性があるため、今後、土壌の回収を行う

漏えい量の概略評価を行ったところ、2月7日午後3時30分、法令に定める※「発電用原子炉施設の故障その他の不測の事態が生じたことにより、核燃料物資等(気体状のものを除く)が管理区域内で漏えいしたとき」に該当すると判断した。

なお、近傍の構内連続ダストモニタの指示値が通常の変動範囲内で一時的にごくわずかに上昇したが、現在は、元の値に戻っている。

また、モニタリングポスト・敷地境界連続ダストモニタ・漏えい箇所からの距離が最も近いK排水路モニタの指示値に有意な変動はない。

※「東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物資の防護に関する規則第18条第11号」

・2月22日午前3時37分、増設雑固体廃棄物焼却建屋の廃棄物貯留ピットの火災報知器が作動し、監視カメラで現場付近を確認したところ、現場火元なしを確認。その後、水蒸気により現場確認ができなくなったことから、以下の通り、双葉消防本部へ連絡を実施。

・発見者 : 当社社員

・プラント設備への影響 : 確認中

・双葉消防本部への連絡時刻:午前5時58分(119番通報)

火災報知器の作動により、増設雑固体廃棄物焼却建屋の廃棄物貯留ピットに係わる防火シャッターが閉まっていることから、廃棄物貯留ピット周辺のシャッターを開放し、廃棄物貯留ピット内の状況の確認を進めている。

午後0時3分に安全を確保したうえで増設雑固体廃棄物焼却建屋3階の防火シャッターを開け、当社社員により廃棄物貯留ピットの状況を確認。目視確認の結果では、水蒸気の量は多かったものの、廃棄物貯留ピット内に炎は確認されず、廃棄物貯留ピット近傍の温度についても約30℃程度であったことを確認。なお公設消防も午後1時34分に同様の状況を確認。

現場の詳細を確認するためには、廃棄物貯留ピット内の水蒸気を排気し、視認性を高める必要があることから、今後、火災報知器の作動により停止していた排気設備を復旧する予定。

廃棄物貯留ピット内の水蒸気の排気を確認できた後、改めて現場確認を行う予定。

火災報知器の作動によって停止していた排気設備の復旧は、午後4時8分より開始し、午後8時に復旧作業を終了。廃棄物貯留ピット内への注水を2月23日午前0時40分より開始。

廃棄物貯留ピット内への注水開始以降、廃棄物貯留ピット内の状況を確認しているが、現在も水蒸気の滞留が解消していないため、注水を継続している。

2月24日午後2時47分、公設消防により「非火災」と判断された。

水蒸気の滞留を解消することを目的とし、廃棄物貯留ピット内への注水を継続していたが、廃棄物貯留ピット上部(気相部)の温度は 24℃程度まで低下したことから、廃棄物貯留ピット内への注水容量を確保するため、2 月 25 日午後 2 時 03 分に注水を一旦停止。今後、現場状況を確認しながら必要に応じ注水を実施。

その後、廃棄物貯留ピット内の水蒸気の滞留は無くなっており、視認性が改善された。また、廃棄物貯留ピット内の温度についても低下後安定していることを確認。現在、廃棄物貯留ピット内の水やチップの回収に向けて、検討を進めており、今後、回収に向けた準備作業から実施してまい。なお、周辺のモニタリングポスト等への影響は確認されてない。